

科目	言語文化	学年	第1学年	開講	通年	必修	2 単位
----	------	----	------	----	----	----	------

教科書：精選 言語文化（明治書院）

副教材：精選 言語文化 学習課題ノート（明治書院）新精選古典文法三訂版（東京書籍）新精選古典文法準拠ノート改訂版（東京書籍）

基礎から解釈へ漢文必携五訂版（桐原書店）基礎から解釈へ漢文必携チェックノート基本編（桐原書店）

読んで見て覚える重要古典文法単語315三訂版（桐原書店）3ステップオリジナル問題集基礎現代文〈大学入学共通テスト対策新装版〉（尚文出版）

1 学習の到達目標

生涯にわたる社会生活に必要な資質・能力を確実に成長させる

2 学習計画及び評価方法

a 知識技能

b 思考・判断・表現

c 主体的に学習に取り組む態度

学期	項目	単元	学習内容	学習のねらい	月	考查	評価の観点		
							a	b	c
前期		・小石を集める	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 ・我が国の言語文化の特質について理解すること。	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質について理解している。 ・進んで言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることや、我が国の言語文化の特質について理解し、学習の見通しをもって、自分の言語文化のルーツについて学ぼうとしている。	4		○		
		・児のそら寝 （宇治拾遺物語） ・古文を読むために1 ・古文を読むために2	・説話のおもしろさを味わう。 ・歴史的仮名遣いの読み方や文語のきまりを理解し、古文に親しむ。 ・内容や展開などについて叙述を基に的確に捉え、僧たちが児を笑った理由を話し合う。	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・時間の経過による文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・進んで説話のおもしろさを味わい、歴史的仮名遣いの読み方や古語と現代語の違いを理解し、学習課題に沿って、内容や展開などについて叙述を基に的確に捉え、僧たちが児を笑った理由を話し合う。	4		○		
		・大江山(十訓抄) ・古文を読むために3	・説話のおもしろさを味わう。 ・歴史的仮名遣いの読み方や、活用語の活用形や種類、係り結びなど文語のきまりを理解し、古文に親しむ。 ・掛詞の表現技法とその効果について理解する。	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・掛詞などの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・進んで説話のおもしろさを味わい、歴史的仮名遣いの読み方や、活用語の活用形や種類、係り結びなど文語のきまりを理解し、学習課題に沿って、掛詞の表現技法とその効果について理解しようとしている。	4 5		○		
		・奥山に猫またといふ ものありて(徒然草) ・古文を読むために4	・『徒然草』に表れた作者のものの見方、感じ方を捉える。 ・文語助動詞の種類と用法を理解する。 ・本文の描写を手がかりに作者の描く法師像について話し合う。	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解している。 ・時間の経過による文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・進んで『徒然草』に表れた作者のものの見方、感じ方を捉え、文語助動詞の種類と用法を理解し、学習課題に沿って、本文の描写を手がかりに作者の描く法師像について話し合おうとしている。	5	中間	○		

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後期

	・春望・八月十五日 夜、禁中独直、对月 憶元九(詩)	・漢詩のきまりと表現の特色について学び、漢詩の世界に親しむ。 ・描かれた状況や心情を考えながら、それぞれの漢詩を読み味わう。 ・杜甫と白居易の当時の境遇と時代背景を調べ、二つの詩を比較して、その違いがどのように表れているか、発表する。	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・時間の経過による言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・進んで漢詩のきまりと表現の特色について学び、漢詩の世界に親しみ、描かれた状況や心情を考えながら、それぞれの漢詩を読み味わい、学習課題に沿って、杜甫と白居易の当時の境遇と時代背景を調べ、二つの詩を比較して、その違いがどのように表れているか、発表しようとしている。	1		○			
	富士山・鳥児塞宮(詩)	・日本漢詩を読み、我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ・描かれた状況や心情を考えながら、それぞれの漢詩を読み味わう。 ・富士山やヴェルサイユ宮殿を漢詩の題材とすることの効果について話し合い、発表する。	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・進んで日本漢詩を読み、我が国の文化と外国の文化との関係について理解し、描かれた状況や心情を考えながら、それぞれの漢詩を読み味わい、学習課題に沿って、富士山やヴェルサイユ宮殿を漢詩の題材とすることの効果について話し合い、発表しようとしている。	1		○			
	・論語	・我が国に大きな影響を与えた『論語』を読み、そこに現れている孔子のものの見方・考え方を理解する。 ・『論語』を学ぶことによって、自己のものの見方・考え方を豊かにする。 ・『論語』の各章から好きな一章を選び、そこに示されている孔子の学問観・政治観・人生観について、話し合つてまとめる。	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・進んで『論語』を読み、そこに現れている孔子のものの見方・考え方を理解し、自己のものの見方・考え方を豊かにし、学習課題に沿って、『論語』の各章から好きな一章を選び、そこに示されている孔子の学問観・政治観・人生観について、話し合つてまとめようとしている。	2		○			○
	・羅生門(芥川龍之介)	・近代日本文学への入門的な短編を通して、内容や展開を的確に捉えることを学ぶ。 ・異なる作風の小説を比較して、それぞれの作品の特色をつかむ。 ・末尾の一文から想像される下人のその後の姿を、文章にまとめることを通して、舞台設定・構成・描写に対する理解を深める。	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読み慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質について理解している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・進んで内容や展開を的確に捉えることを学び、作品の特色をつかもうとし、学習課題に沿って、舞台設定・構成・描写に対する理解を深めようとしている。	2		○			○
	・待つ(太宰治)	・小説や随想の表現の仕方・特色をつかみ、自分のものの見方・考え方、感じ方を深める。 ・作品の成立した時代や背景について調べ、作品をさまざまな角度から考える。 ・「私」が何を待っているかが明確でないのはなぜか、「私」の気持ちと、作者の立場の両面から考える。	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質について理解している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・進んで小説の表現の仕方・特色をつかみ、成立した時代や背景などさまざまな角度から作品を考え、学習課題に沿って、「私」が待っているものについて考えようとしている。	2		○			○

[illegible]

		・小景異情	・近現代の詩が、古典詩歌の文化的蓄積の上に成立していることを理解する。 ・作品を、反復表現の効果に留意しながら読み味わう。 ・「ふるさと」と「みやこ」の関係について、作者の生きた時代なども参考にして考える。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・進んで作品を、反復表現の効果に留意しながら読み味わい、学習課題に沿って、「ふるさと」と「みやこ」の関係について、作者の生きた時代なども参考にして考えようとしている。	3			○		
		・およぐひと	・近現代の詩が、古典詩歌の文化的蓄積の上に成立していることを理解する。 ・作品を、比喩表現の効果に留意しながら読み味わう。 ・平仮名表記が作品にどのような効果をもたらしているか考える。	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・進んで、作品を比喩表現の効果に留意しながら読み味わい、学習課題に沿って、平仮名表記が作品にどのような効果をもたらしているか考えようとしている。	3		○			
		・永訣の朝	・近現代の詩が、古典詩歌の文化的蓄積の上に成立していることを理解する。 ・作品を、方言を取り入れたことの効果に留意しながら読み味わう。 ・作者の「いもうと」への思いと、作品内の描写がどのように関連しているかまとめる。	・我が国の言語文化の特質について理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・進んで、作品を、方言を取り入れたことの効果に留意しながら読み味わい、学習課題に沿って、作者の「いもうと」への思いと作品内の描写が、どのように関連しているかまとめようとしている。	3		○			
	後期 授業評価									

3 評価の観点

- ・文章を的確に読み、理解できたか。〔思考力・判断力〕問に対し、自身の意見を明確に述べることができたか。〔表現力等〕
- ・定期テスト、漢字テストの結果及び課題等提出物の内容、授業への取り組み、出席状況などから総合的に評価。

＜評価算出方法＞

定期考査(100点×4)＋平常点(100点)/500点

※考査素点4：平常点1の割合で算出する。